

■ 概況

11/11～11/17のNYMEX・WTI先物市場は、78.36～81.59ドルの範囲で推移した。

18日は、3営業日より反発した。12月限の終値は、前日比0.65ドル高の79.01ドル。米政府は日本などに対し、原油の戦略備蓄の放出で協調するよう求めている。18日は日本と韓国が放出に消極的と伝わったことなどから、先物が買い直された。

週末19日は、大幅に反落。12月限の終値は、前日比2.91ドル安の1バレル76.10ドル。一時は75.37ドルと1カ月半ぶりの安値を付けた。欧州の新型コロナウイルスの感染再拡大で、経済活動が停滞し、原油需要が減少するとの懸念から売りが出た。オーストリア政府は19日、新型コロナの感染拡大を受け22日から全土でロックダウン（都市封鎖）を実施すると発表した。ドイツなど他の主要国でも厳しい規制が導入されるとの見方もあり、欧州の景気減速懸念が強まった。

米政府が原油の備蓄放出で協調するよう各国に求めたことも引き続き相場の変動要因となっている。日本経済新聞は19日（日本時間20日）に「日本政府が石油の国家備蓄の放出を検討していることが分かった」と報じた。原油市場は米国が原油備蓄の放出を要請したとされる中国や韓国なども協調して備蓄放出に動くかどうかに関心が高まっている状況となっている。

米国内の稼働中の石油掘削リグは、前週比7基増の461基となった。

週明け22日は、上昇した。1月限の終値は、前週末比0.81ドル高の76.75ドル。米国などが石油戦略備蓄を放出した場合、主要産油国が生産を抑制する可能性があると伝わった。需給が緩むとの見方が薄れ、買いが優勢となった。

米政府は高止まりする原油価格に対応するため、日本などに協力を要請して近く石油の戦略備蓄の放出を決めるとの

観測が高まっている。これに対して、石油輸出国機構（OPEC）加盟国とロシアなど非加盟の産油国からなるOPECプラスが「現行の増産計画を見直す可能性がある」との報道から、産油国が対抗して供給を減らし、需給が緩和しないとの見方を誘った。23日は、日米中などが石油備蓄の協調放出を決めたものの、需給緩和効果は限定的との見方が強く、続伸した。1月限の終値は、前日比1.75ドル高の78.50ドル。

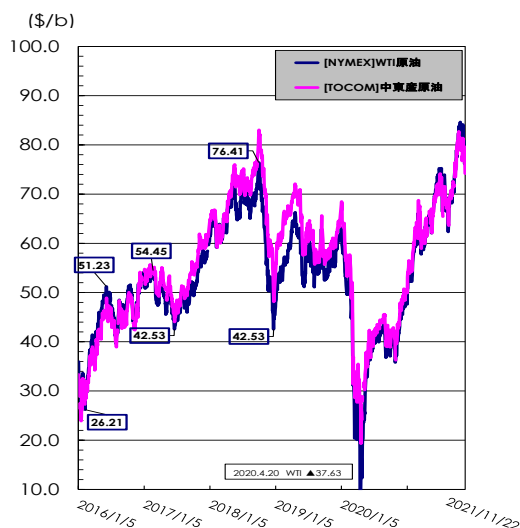
24日は、米原油在庫の増加や、対ユーロでのドル高に押され、反落した。1月限の終値は前日比0.11ドル安の78.39ドルだった。米エネルギー情報局（EIA）が発表した週間在庫統計で原油在庫が前週比100万バレル増と、原油在庫の減少を見込んでいた市場予想に反して増加した。これを受けて、需給逼迫懸念が後退し、原油が売られた。また、外国為替市場では対ユーロでのドル高が進行。ドル建てで取引される商品の割高感につながり、原油が売られた。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（1月渡し）は、11月11日～11月17日の間、80.60～81.80ドルの範囲で推移した。11月18日79.00ドル、19日81.10ドル、22日77.50ドル、24日81.80ドルで推移した。

為替は11月11日～11月17日の間、113.96～114.87円の範囲で推移した。11月18日114.18円、19日114.36円、22日114.10円、24日115.21円で推移した。

そのような中で、11月22日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.2円の値下がり、軽油は同0.1円の値下がり、灯油は横ばい（18日ベース）であった。ガソリンは2週連続の値下がり、軽油も2週連続の値下がり、灯油は12週振りに値上がり止まった。この週（11月第4週）の原油コストは値下がりしており、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、前週比1.0円の値下げとなった模様。

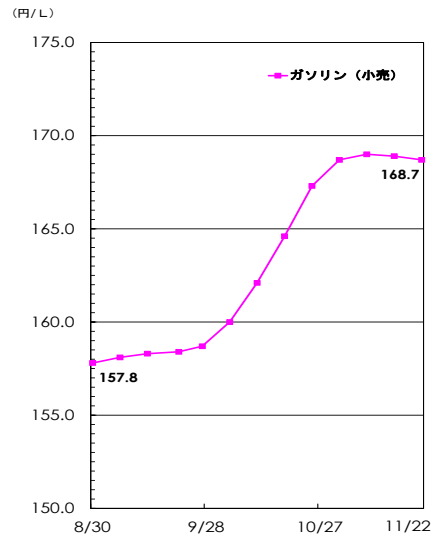
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	11/14～11/20	2,922 ▲91	▲
	トッパー稼働率 (%)	"	75.9 ▲2.4	▲
	原油在庫量 (千kl)	11/20	9,654 ▲515	▼
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	11/22	74.15 ▼-4.24	▲28.6
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	11/22	76.75 ▼-4.13	▲33.7
	原油CIF単価 (\$/bbl)	10月下旬	77.60 ▲1.20	▲33.06
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	55,101 ▲1,595	▲25,544
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	112.88 ▼-1.54	▼-7.37
	外国為替TTSレート (¥/\$)	11/22	115.10 ▼-0.10	▼-9.52



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	11/14 ~ 11/20	931 ▲ 115	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	821 ▲ 23	▲ -
	輸出	"	29 ▼ -33	▼ -
	在庫	11/20	1,593 ▲ 82	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/16 ~ 11/22	76.0 ▼ -0.3	▲ 32.9
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	11/16 ~ 11/22	73.0 ▼ -2.8	▲ 32.7
	(TOCOM/中部)	11/22	74.2 ▼ -2.8	▲ 31.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/22	168.7 ▼ -0.2	▲ 35.6

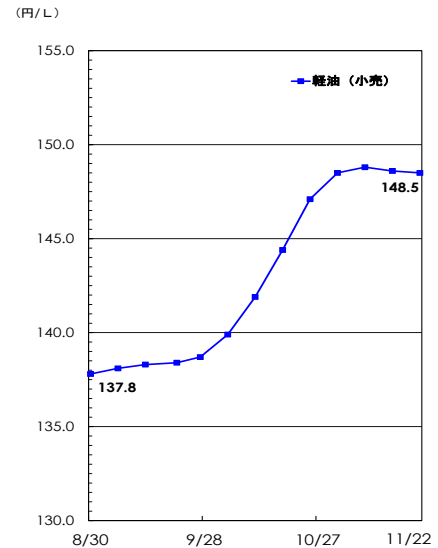
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

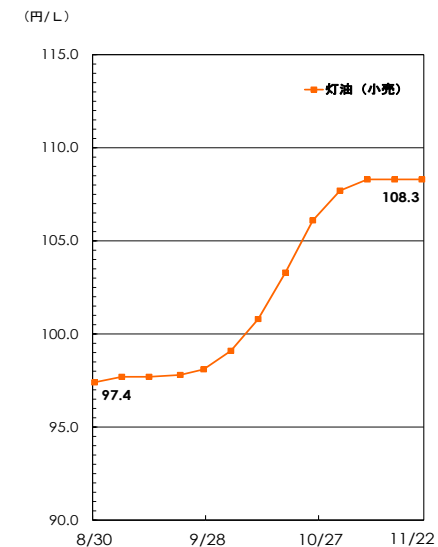
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	11/14 ~ 11/20	733 ▲ 34	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	615 ▼ -46	▼ -
	輸出	"	50 ▼ -72	▲ -
	在庫	11/20	1,325 ▲ 68	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/16 ~ 11/22	77.0 ▼ -0.4	▲ 31.5
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	11/16 ~ 11/22	78.9 ▼ -0.6	▲ 31.8
	(TOCOM/中部)	11/22	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/22	148.5 ▼ -0.1	▲ 34.6

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	11/14 ~ 11/20	193 ▼ -66	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	284 ▲ 128	▲ -
	輸出	"	24 ▼ -4	▼ -
	在庫	11/20	2,717 ▼ -115	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/16 ~ 11/22	76.8 ▼ -0.5	▲ 31.7
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	11/16 ~ 11/22	73.9 ▼ -1.6	▲ 31.0
	(TOCOM/中部)	11/22	74.0 ▼ -2.0	▲ 29.9
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/22	108.3 ▲ 0.0	▲ 29.5



■ 関連情報

1 海外/原油

11月24日のNYMEX先物原油は、3営業日ぶりに反落した。1月限の終値は、前日比0.11ドル安の78.39ドル、2月限は0.13ドル安の77.81ドルとなった。週間統計で米国の原油在庫が増え、売り材料視された。米エネルギー情報局(EIA)が24日に発表した週間の石油在庫統計で、原油在庫が減少を見込んでいた市場予想に反して増加した。需給の緩みを懸念した売りが出たほか、25日は感謝祭の祝日で休場となるため持ち高調整の売りも出やすかった。原油相場は78ドル台を中心に小幅な動きだった。米政府が今後数カ月かけて5000万バレルの戦略備蓄を放出すると23日に発表した、市場

では「予想よりはるかに小さい規模」との受け止めが広がっており、むしろ相場を下支えする材料になっている。

EIAによると、11月22日時点のガソリンの小売価格は、前週比0.4セント値下がりの1ガロン3.395ドル(103.1円/ℓ)、ディーゼルは同1.0セント値下がりの3.724ドル(113.1円/ℓ)となった。ガソリンは2週連続の値下がり、ディーゼルは10週ぶりの値下がりとなった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2021年11月14日～11月20日に休止したトッパ能力は51.5万バレル/日で、前週に対して5.4万バレル/日増加した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は292.2万klと、前週に比べ9.1万kl増加。前年に対しては8.2万klの増加。トッパ稼働率は75.9%と前週に対して2.4ポイントの増加、前年に対しては2.1ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて灯油が減産、その他の油種で増産となった。

ガソリン/14.0%増、ジェット/56.8%増、灯油/25.4%減、軽油/4.9%増、A重油/8.6%増、C重油/62.8%増。今週のC重油の輸入は3.6万kl(前週比3.2万kl減)。軽油の輸出は5.0万kl(前週比7.2万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週比で軽油が減少し、その他の油種で増加した。

前年比ではジェット、軽油が減少し、その他の油種で増加した。

ガソリンの出荷は82.1万kl(対前週2.9%増)と3週連続で増加した。

ジェット3.2万kl(対前週274.9%増)、灯油28.4万kl(対前週82.1%増)、軽油61.5万kl(対前週6.9%減)、A重油23.3万kl(対前週25.4%増)、C重油27.9万kl(対前週57.9%増)。

(単位: 千KL)

	今週 (11/14 ~ 11/20)	前週 (11/7 ~ 11/13)	前週比	
ガソリン	821	798	▲ 23	(3%)
ジェット燃料	32	9	▲ 23	(256%)
灯油	284	156	▲ 128	(82%)
軽油	615	661	▼ -46	(-7%)
A重油	233	186	▲ 47	(25%)
C重油	279	177	▲ 102	(58%)
合 計	2,264	1,987	▲ 277	(14%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

11月20日時点の在庫は、ガソリン、ジェット、軽油が積み増しとなり、他の油種で取り崩しとなった。

前年に対してはジェットが増加し、他の油種で減少となった。

ガソリンは159.3万kl、前週差8.2万kl増。前年に対しては30.2万kl少ない。

灯油は271.7万kl、前週差11.5万kl減。前年に対しては14.6万kl少ない。

軽油は132.5万kl、前週差6.8万kl増。前年に対しては27.1万kl少ない。

A重油は70.8万kl、前週差4.0万kl減。前年に対しては8.2万kl少ない。

C重油は177.0万kl、前週差2.8万kl減。前年に対しては9.4万kl少ない。

(単位: 千KL)

	今週 (11/20)	前週 (11/13)	前週比	
ガソリン	1,593	1,511	▲ 82	(5%)
ジェット燃料	840	767	▲ 73	(10%)
灯油	2,717	2,832	▼ -115	(-4%)
軽油	1,325	1,257	▲ 68	(5%)
A重油	708	748	▼ -40	(-5%)
C重油	1,770	1,798	▼ -28	(-2%)
合 計	8,953	8,913	▲ 40	(0.4%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

11月16日～22日の指標原油価格は前週比で値下がりし、為替レートは円安であったが、円建ての原油コストは値下がりしたものと見られる。

次週(11/25～12/1)の大手元売卸価格はガソリン・灯油・軽油ともに、全社前週比1.0円の値下げとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

11月16日～11月22日の製品スポット市況は、11月9日～11月15日平均と比べ、全油種・全取引で、値下がりした。

直近週(11/16～11/22)の陸上スポット価格平均値は、前週(11/9～11/15)比で、ガソリンは0.3円の値下がり、灯油は0.5円の値下がり、軽油は0.4円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(11/16～11/22)に、前週(11/9～11/15)比で、ガソリンは0.1円の値下がり、灯油は0.6円の値下がり、軽油は0.3円の値下がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは2.8円の値下がり、灯油は1.6円の値下がり、軽油は0.6円の値下がりだった。

(RIM)		(単位: 円/ℓ)		
ス ポ ッ ト 価 格	(陸上ローリー 4地区平均)	今週 (11/16～11/22)	前週 (11/9～11/15)	前週比
	レギュラー	76.0	76.3	▼ -0.3
	灯油	76.8	77.3	▼ -0.5
	軽油	77.0	77.4	▼ -0.4

(TOCOM)		(単位: 円/ℓ)		
先 物 価 格	(期近物/終値 〔平均〕)	今週 (11/16～11/22)	前週 (11/9～11/15)	前週比
	レギュラー	73.0	75.8	▼ -2.8
	灯油	73.9	75.5	▼ -1.6
	軽油	78.9	79.5	▼ -0.6

※上記価格は税抜き価格

参考値 (11/16～11/22実績値) (単位: 円/ℓ)			
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.3	▼ -2.8	▼ -1.6
灯油	▼ -0.5	▼ -1.6	▼ -1.0
軽油	▼ -0.4	▼ -0.6	▼ -0.5
A重油	▼ -0.3		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

11月22日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円安の168.7円、軽油は同0.1円安の148.5円、灯油は18ℓベースで横ばいの1,950円(1ℓベースでは同±0.0円の108.3円)。ガソリンは2週連続の値下がり、軽油も2週連続の値下がり、灯油は12週振りに値上がり止まった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは13県で、横ばいは10府県、値下がり24都道府県であった。全国最安値は163.3円の埼玉県、その次は、163.5円の徳島県であった。他方、最高値は176.9円の長崎県だった。最も値上がりしたのは沖縄県(前週比0.6円高)で、横ばいは長野県他で、最も値下がりしたのは神奈川県(同1.6円安)だった。

今週(11/16～22)の指標原油価格は値下がりし、為替レートは円安であったが、円建ての原油コストは値下がりしたものと見られる。次週(11/25～12/1)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社前週比1.0円の値下げとなった模様。次回調査時(11/29)のガソリンの小売価格は、これまでの卸値の転嫁状況を踏まえると値下がり予想される。

(単位：円/ℓ)				
(資工庁公表) [週動向]	今週 (11/22)	前週 (11/15)	前週比	直近高値
小売価格	レギュラー	168.7	168.9 ▼ -0.2	08/8/4 185.1
	灯油	108.3	108.3 ➡ 0.0	08/8/11 132.1
	軽油	148.5	148.6 ▼ -0.1	08/8/4 167.4

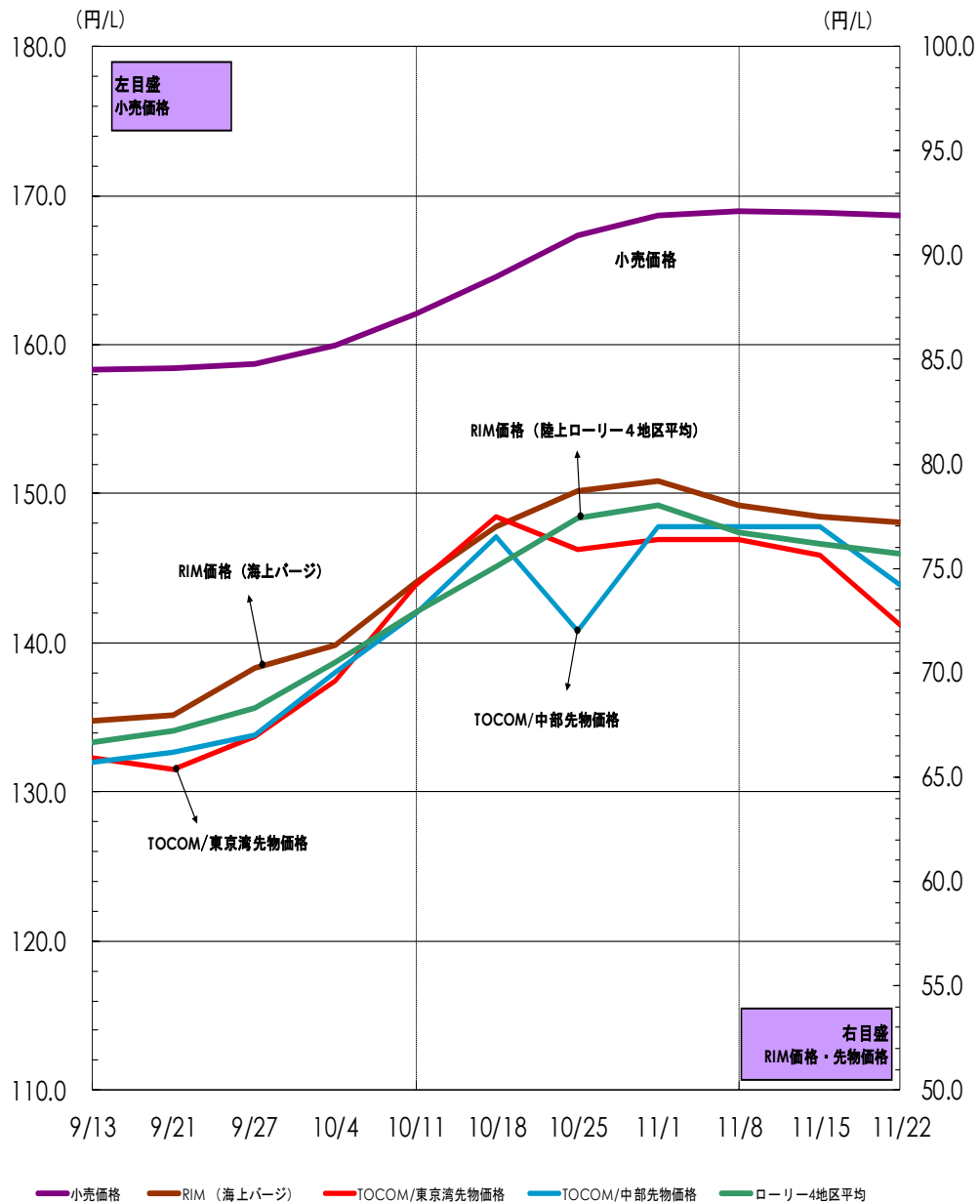
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

[2021/9/13 ~ 2021/11/22]



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回 (2021第34号) の公表は、12/3 (金) 14:00 です。

「セルフSS出店状況」(令和3年3月末現在) は、8月25日 (水) 14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層 (特に給油所経営に携わる方々) から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所 (The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限 (翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社 (RIM) 「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用 (いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格 (平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格 (平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁-HPIに掲載)。